

「ナチス」「キッチン」そして「安保法制」、 そのころは・・・ 藤原辰史さんの紹介

2015年、保問研では石川での全国集会、9月の代表者会議で、「安保法案に反対するアピール」を出しました。他の団体、大学からも多数のアピールが出されましたが、今回、講座に来ていただくのは「自由と平和のための京大有志の会」の発起人の藤原辰史さんです。声明書の一部を紹介します。「戦争は、防衛を名目に始まる。戦争は、兵器産業に富をもたらす。戦争は、すぐに制御が効かなくなる。戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる」そして最後は「生きる場所と考える自由を守り、創るために、私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない」と、結ばれています。その子ども訳もあり、絵本になっています。是非、本文も子ども訳も、京大有志の会のHPで全文を読んでください。

この声明文に示されるように戦争はあってはならないものですが、藤原さんは、著書「ナチスのキッチン」でナチスドイツの研究からその恐ろしさを伝えています。ナチスドイツのスローガンは「身体は国家のもの！身体は総統のもの！健康は義務である！食は自分だけのものではない！」でした。戦争には、健康な兵士、健康な母が必要だったのです。さらに、戦争による食糧難の中では「無駄をなくせ闘争」が強いられます。そこでは食品を清潔に保つことが必要になります。その「清潔」ということばが、アウシュビッツの思想とも関連して考察されています。また、効率重視のキッチンの改革やレシピの紹介もありますが、そうした政策には企業との結びつきがあったことが示されています。

今、わたしたちが歴史を学ぶことは、ひとりひとりをたいせつにする「民主主義」の原則を確認して、安保法制、沖縄の基地問題、原発問題などを考えていくうえで、とても重要だと思います。だから今、藤原さんに学びたいのです。
(文責 西川由紀子)